



株式会社 **イノモト**

証券コード：6928

第55期 年次報告書

2020年4月1日～2021年3月31日



株主の皆様へ



代表取締役社長

武内 延公

株主の皆様におかれましては、格別なるご支援を賜り心より厚く御礼申し上げます。このたびの新型コロナウイルス感染症によってお亡くなりになった皆様には、謹んでお悔やみ申し上げますと共に、罹患された皆様には、一日も早い回復を心よりお祈り申し上げます。第55期年次報告書をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

エノモトグループは「経営の中心は人であり、健全なもののづくりを通じて、豊かな社会の実現に貢献する」という志を経営理念とし、1962年の創業以来、多くのプレス加工に関する新技術を開発し、打ち抜き加工・曲げ加工・絞り加工・樹脂成形加工等広範囲のジャンルの金型技術確立し、また、日進月歩で軽薄短小化・高機能化・多機能化する市場ニーズに応えるべく、金属とプラスチックの超微細複合加工技術によって、日本のものづくりに貢献して参りました。

特に地球温暖化防止に貢献する省エネルギー関連製品のひとつであるLED（発光ダイオード）に代表されるオプト用リードフレームをはじめ、スマートフォン等の

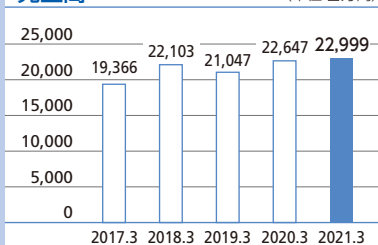
IT機器に搭載されているマイクロピッチコネクタ用部品、また自動運転車やIoTの普及に必須となる各種半導体リードフレームは、今後の社会の発展を支えるキーテクノロジーの一つであると自負しております。また、それらの製品を世界中の主要メーカーに供給していることにより、当社グループが今後とも豊かな社会を実現するために必要な存在であり続けることが出来るものと考えております。

昨年度におけるわが国経済は、企業活動をはじめ国民生活全般が2020年の初めから顕著化した新型コロナウイルス感染症の強い影響下に置かれた一年となりました。国内外において感染の再拡大や新たな変異株の出現

財務ハイライト（連結）

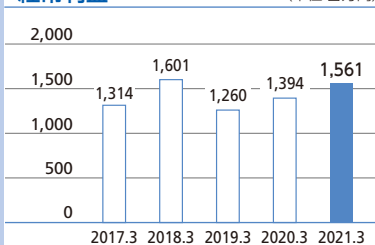
売上高

（単位:百万円）



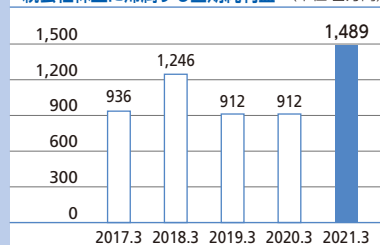
経常利益

（単位:百万円）



親会社株主に帰属する当期純利益

（単位:百万円）



と流行など、経済の停滞に繋がるリスクが未だに存在していますが、製造業を中心とした一部の産業で力強い回復基調にあります。

当社グループの属する電子部品業界におきましては、前半は諸外国における地域または都市単位のロックダウンや、企業活動の制限を伴う政策等による混乱から全般的に伸び悩んだものの、後半は世界的な自動車需要や個人消費マインドの改善により、急激な回復基調となりました。

このような状況下、当社グループは更なる品質の改善と製造工程の自動化・効率化による製造コスト低減を組織的に推進し、売上及び収益力の向上に努めて参りました。

その結果、当連結会計年度の売上高は229億9千9百万円（前年同期比1.5%増）、営業利益は15億6千3百万円（同15.0%増）、経常利益は15億6千1百万円（同12.0%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は繰延税金資産の追加計上を行ったため14億8千9百万円（同63.1%増）となりました。

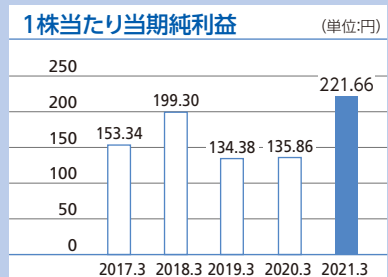
当社は、株主に対する利益還元を経営の最重要政策と位置づけており、将来の事業展開と経営基盤強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当の継続を

重視し、業績に裏付けられた成果の配分を行うことを基本方針としております。

当連結会計年度の期末配当は、当期の業績と配当性向を総合的に鑑み、1株当たり40円とさせていただきますと存じます。

引き続き全社一丸となり業績の向上と経営基盤の強化を目指し、なお一層努力して参る所存でございますので、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2021年6月



※2017年10月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を実施しました。これに伴い、過年度の「1株当たり当期純利益」を適及修正しております。

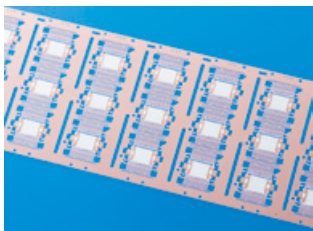
| 事業別の概況

IC・トランジスタ用リードフレーム

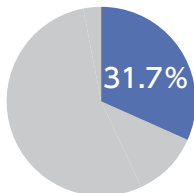
売上高

7,287百万円 ▼ 2.6%減

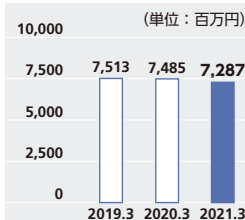
当製品群は、自動車向け、民生用機器向けが主なものであります。前半は自動車向け部品が海外を中心とする自動車販売台数減少の影響を受けましたが、後半からは需要は回復基調に転じました。その結果、当製品群の売上高は72億8千7百万円（前年同期比2.6%減）となりました。



売上高比率



売上高推移

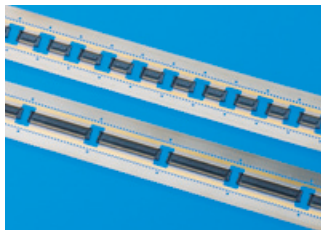


コネクタ用部品

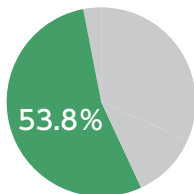
売上高

12,384百万円 ▲ 7.1%増

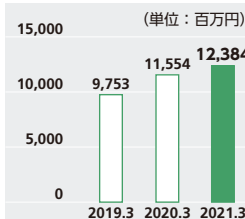
当製品群は、自動車向け、モバイル端末向けが主なものであります。自動車向け部品の需要は後半から回復し、スマートフォン向け部品やウェアラブル端末向け部品も高い水準の需要で推移しました。その結果、当製品群の売上高は123億8千4百万円（同7.1%増）となりました。



売上高比率



売上高推移

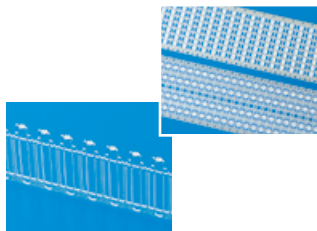


オプト用リードフレーム

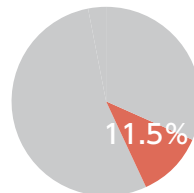
売上高

2,639百万円 ▼ 7.5%減

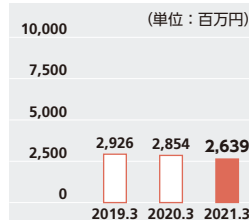
当製品群は、LED用リードフレームが主なものであります。自動車向け部品のほか、集客施設の大型ディスプレイ向け部品などの需要が減少いたしました。その結果、当製品群の売上高は26億3千9百万円（同7.5%減）となりました。



売上高比率



売上高推移



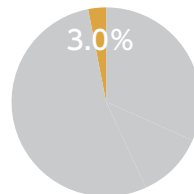
その他

売上高

688百万円 ▼ 8.4%減

その他の製品群としては、リレー用部品が主なものであります。当製品群の売上高は6億8千8百万円（同8.4%減）となりました。

売上高比率



売上高推移



次期の見通し

次期の見通しにつきましては、新型コロナウイルス感染症の感染再拡大への懸念は未だ強いものの、経済に対する影響範囲は一定程度の予測ができる状況となりました。

当社グループの属する電子部品業界は、自動車を中心としたマインドの回復に加え、5G社会やIoTを支えるデータセンター等情報処理関連施設の建設や、情報通信機器の堅調な需要など、力強い追い風を受けております。

当社はリードフレーム、コネクタ用部品共に概ね好調な受注環境にありますが、急激な需要回復に加え大手メーカーの事故やアメリカの寒波の影響による半導体や原材料の供給不足が生じており、サプライチェーン全体の停滞が懸念事項となっています。

このような環境下、当社グループは引き続き品質の向上と製造コスト低減を目的とした製造工程の自動化・効率化の推進や、当社の強みである金属と樹脂の精密複合加工技術をベースとした過去の枠組みにとらわれない新たな顧客の積極的な開拓等、全社一丸となって売上及び収益力の向上に取り組んで参ります。

また、国内外のすべての拠点において徹底した感染防止策を講じ感染者の発生を防止すると共に、万一感染者が発生した場合においても生産及び出荷への影響を最小化し、安定的な生産活動を維持できる体制を構築しております。

次期の見込み

当社グループの2022年3月期通期連結業績予想は、売上高は前年同期と同水準の230億円、営業利益16億5千万円（前年同期比5.5%増）、経常利益16億円（同2.4%増）、前期に繰延税金資産の追加計上を行った結果、その影響を受ける親会社株主に帰属する当期純利益は13億5千万円（同9.3%減）を見込んでおります。

売上高	23,000百万円
営業利益	1,650百万円
経常利益	1,600百万円
親会社株主に帰属する当期純利益	1,350百万円

研究開発活動

当社グループは、情報技術（IT）の発展により拡大を続ける半導体及び通信機器市場に対応していくため、長年にわたり培ってきた金型技術・精密プレス加工技術を基盤に、電子部品業界に限らずに、将来のダイナミックな事業展開に備えた研究開発を進めております。

現在の研究開発活動は、開発部の主管において、通常の生産活動を通して推進されている新たな生産技術の研究開発の他、既存の生産活動の枠を超える次世代製品の開発を見込んだプロジェクト案件に対して、積極的に参画することによって推進されております。山梨大学との共同開発による燃料電池スタックの基幹部品の一つであるセパレータの新技術につきましては、実用化に向けた量産技術確立と製造コスト削減をテーマに置き、燃料電池車・家庭用燃料電池への参入を目指してプロジェクトが進行しております。

トピックス

新中長期経営方針

当社グループは、2021年度から2030年度の10年間に当社グループの事業運営の指針となる、長期経営ビジョン『金型の技術で未来を創る ～より小さく より速く 最先端の技術で暮らしとビジネスのベストパートナーを目指す～』を掲げました。

これは当社グループのコア技術である金型加工の更なる高みを目指すと共に、そこから派生した新規技術を組み合わせ、最先端デバイスの開発と発展に常に寄与する、最も信頼されるビジネスパートナーであり続ける決意を示したものです。

そのビジョンの達成に向けて、期間を3ステップに分けて計画を策定いたします。まずは2021年度から2023年度の3年間で最初のステップと位置づけ、具体的な目標数値を設定いたしました。

このステップでは、成長のための積極的な投資を行うと同時に、利益成長によってご支援を頂いております株主の皆様への安定的な還元をいたしますことをテーマとしております。

詳しくは当社ホームページ<https://www.enomoto.co.jp/ir/>にございます、「中期経営計画」のコーナーをご覧ください。

1st STEP 目標数値

売上高
250億円

営業利益
20億円
(利益率8%)

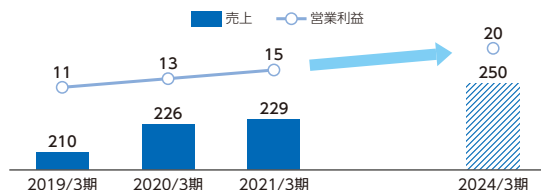
ROE
8%

増収施策：成長分野への投資

情報通信分野（ウェアラブル端末等）
⇒ 津軽工場能力増強

EV・自動運転分野への注力
⇒ フィリピン工場での受注強化

売上高・営業利益



限界利益引き上げ施策

量産工程の自動化
金型製作のデジタル化
海外拠点の強化

また、中期経営計画1st STEPの初年度にあたる2021年度の経営重点テーマとしては『我慢』を掲げました。これは、依然として制約を強いられる環境下においても各自が強い意志と責任感を持ち、感情や行動の自制と冷静な判断を行うことで円滑な事業活動を推進し、組織としての更なる成長を目指す決意を端的に表したものであります。

対処すべき課題

当社グループが対処すべき課題としては、次の6点であると認識しております。

① 成長分野への投資と収益力強化

当社グループは、金属と樹脂の精密複合加工技術を強みとし、現状においても世界最小クラスの部品加工を実現していますが、今後も既存の技術を最大限に生かし常に最先端のデバイスの普及に寄与するほか、従前の事業のカテゴリにとらわれず蓄積された技術力や生産能力及び品質管理能力を生かせる分野への進出とその準備について、積極的な投資を実施いたします。

② 職人技の発掘及び伝承と自動化の相乗効果による金型技術の進化

当社に蓄積されている技術は貴重な経営資源であるものの、個人の経験や感覚に委ねられている部分も多くあることから、それらを客観的に分析しデジタルデータ化を進めることで技術の伝承と工程の自動化を促進し、金型技術の新たなステージへの進化を目指します。

③ スマートファクトリーによる経営資源の最適化

効率化・自動化・省人化は従前より取り組んで参りました製造工程改革のテーマではありますが、現在増築工事を行っている津軽工場はスマートファクトリーをコンセプトとし、先進的な自動化システムの導入を予定しております。将来的にはコンセプトの他拠点への展開を計画しており、経営資源の効率的な活用を推進いたします。

④ 財務基盤の強化

当社は経営資源の効率化により棚卸資産の圧縮と遊休等不動産の処分を進め、生み出したキャッシュフローで成長投資の実施と安定的な配当を行い、企業価値の最大化を図ります。

⑤ 人財育成と働き方改革

当社グループの経営理念にもありますとおり『経営の中心は人』であり、培ってきた技術力の継承と発展を担う、特に若い世代の技術者の確保と育成は恒久的な課題です。国内外を問わずより幅広い人財の確保を図ると共に、中長期的視点に基づいた教育により人財育成を行っております。また従業員の能力や要望を正確に把握することで最善のワークライフバランスの実現を目指し、各個人が能力を最大限に発揮できる職場づくりに努めて参ります。

⑥ 環境への取組み

当社グループは経営理念のとおり社会の豊かさや持続性を支える存在であり続けることを目指しており、事業活動における環境負荷の低減と、それを支える分野への参画は永続的な課題であると認識し全社を挙げて積極的に取り組んで参ります。

その他、企業認知度を高めるため、当社事業やこれら施策を広く周知する活動に注力して参ります。

連結財務諸表

■連結貸借対照表（要旨）

（単位：千円）

科 目	前連結会計年度 2020.3.31	当連結会計年度 2021.3.31
資産の部		
流動資産	13,303,982	14,143,434
固定資産	10,907,080	11,433,998
有形固定資産	9,831,448	10,222,955
無形固定資産	177,610	189,985
投資その他の資産	898,022	1,021,057
資産合計	24,211,063	25,577,432
負債の部		
流動負債	7,226,867	7,277,669
固定負債	1,373,975	1,560,506
負債合計	8,600,843	8,838,176
純資産の部		
株主資本	15,892,345	17,191,997
資本金	4,749,333	4,749,333
資本剰余金	5,082,571	5,082,571
利益剰余金	6,213,621	7,508,326
自己株式	△153,180	△148,233
その他の包括利益累計額	△297,234	△467,850
新株予約権	15,109	15,109
純資産合計	15,610,219	16,739,255
負債純資産合計	24,211,063	25,577,432

Point 1

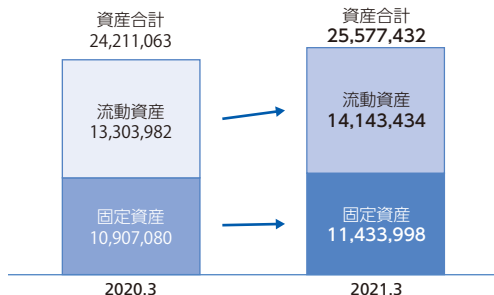
資産、負債及び純資産の状況

当連結会計年度末の総資産は、前期に比べ13億6千6百万円増加し、255億7千7百万円となりました。流動資産は、売上債権及び棚卸資産の増加により前期に比べ8億3千9百万円増加の141億4千3百万円となりました。固定資産は、津軽工場増築に係る建設仮勘定の増加により前期に比べ5億2千6百万円増加の114億3千3百万円となりました。

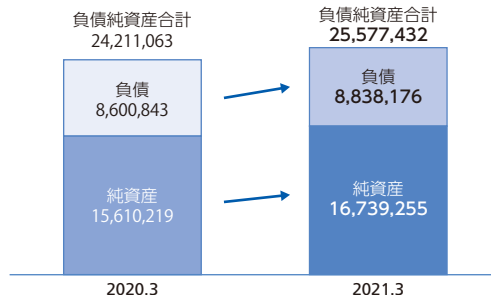
一方、負債合計は、前期に比べ2億3千7百万円増加し、88億3千8百万円となりました。これは、主に仕入債務及び津軽工場増築に係る長期借入金の増加によるものです。

また、純資産は利益剰余金の増加により167億3千9百万円となりました。この結果、自己資本比率は、65.4%となりました。

（単位：千円）



（単位：千円）



Consolidated Financial Statements

■連結損益計算書（要旨）

（単位：千円）

科 目	前連結会計年度 2019.4.1～ 2020.3.31	当連結会計年度 2020.4.1～ 2021.3.31
売上高	22,647,295	22,999,922
売上原価	19,053,742	19,183,949
売上総利益	3,593,552	3,815,973
販売費及び一般管理費	2,234,807	2,252,565
営業利益	1,358,745	1,563,408
営業外収益	141,874	117,166
営業外費用	106,216	118,831
経常利益	1,394,403	1,561,743
特別利益	102,711	13,071
特別損失	336,563	117,103
税金等調整前当期純利益	1,160,550	1,457,711
法人税、住民税及び事業税	291,582	276,932
法人税等調整額	△43,764	△308,712
法人税等合計	247,818	△31,779
当期純利益	912,732	1,489,491
親会社株主に帰属する当期純利益	912,732	1,489,491

Point 2

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ2千1百万円減少し、当連結会計年度末には33億2千4百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は25億6百万円（前年同期は23億5千7百万円）となりました。これは主に税金等調整前当期純利益14億5千7百万円の計上及び減価償却費15億4千6百万円による資金の増加、一方、売上債権6億8千万円の増加による資金の減少であります。

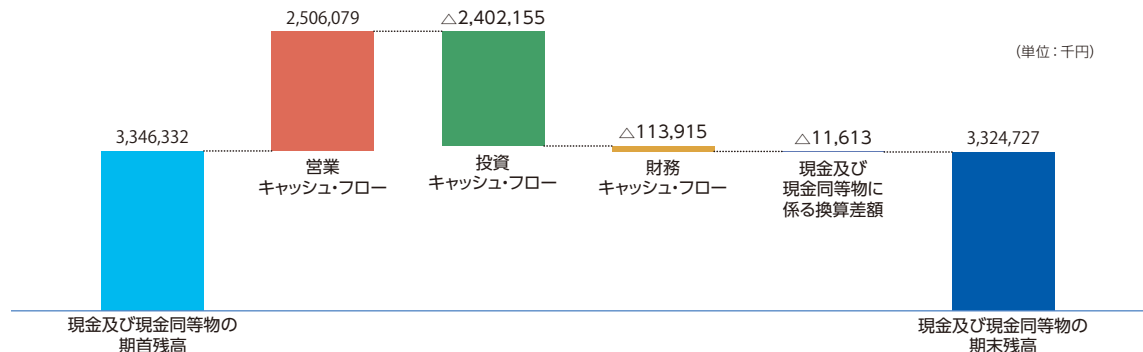
（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は24億2百万円（前年同期は15億1百万円）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出24億7千1百万円であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は1億1千3百万円（前年同期は3億3千3百万円）となりました。これは主に津軽工場増築に係る長期借入金の増加5億円による資金の増加、一方、短期借入金の返済1億7千万円及び配当金の支払2億3千8百万円による資金の減少であります。

■連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）



■ 株式の状況

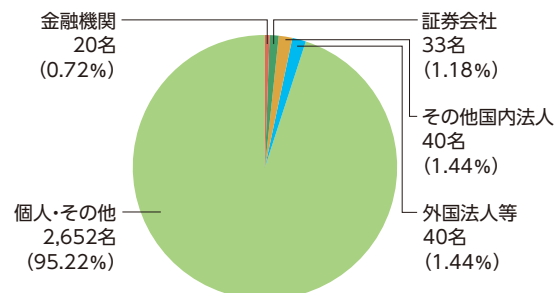
発行可能株式総数 15,000,000株
 発行済株式の総数 6,865,360株
 株主数 2,974名

大株主

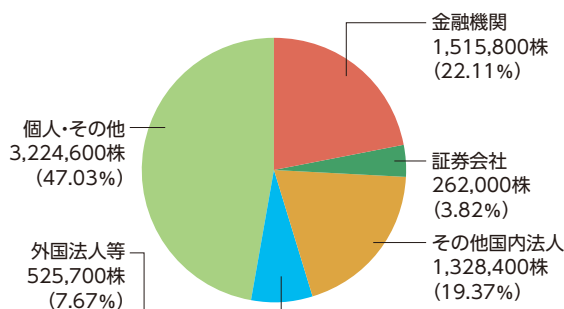
株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
有限会社エノモト興産	630,260	9.2
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	527,800	7.7
有限会社エムエヌ企画	420,328	6.1
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	367,300	5.3
JPMBL RE NOMURA INTERNATIONAL PLC 1 COLL EQUITY	330,900	4.8
榎本寿子	128,104	1.8
櫻井妙子	128,060	1.8
大塚歓一郎	99,900	1.4
櫻井宣男	93,660	1.3
榎本貴信	89,600	1.3

(注) 持株比率は自己株式 (57,879株) を控除して計算しております。

所有者別単元株主数比率



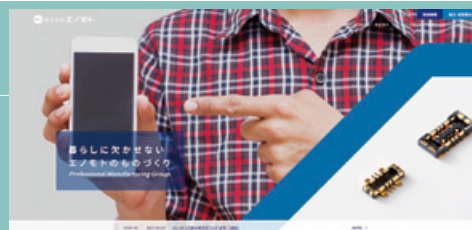
所有者別単元株式数比率



ホームページのご案内

<https://www.enomoto.co.jp>

最新の当社IR情報等をご覧ください。



■ 会社概要 (2021年3月31日現在)

社 名	株式会社エノモト
本 社	山梨県上野原市上野原8154番地19 TEL 0554 (62) 5111
創 業	1962年7月1日
資 本 金	4,749,333千円
従 業 員 数	486名
事 業 内 容	各種電子部品用プレス加工品及び射出成形加工品の製造販売
子 会 社	ENOMOTO PHILIPPINE MANUFACTURING Inc. ENOMOTO HONG KONG Co.,Ltd. ZHONGSHAN ENOMOTO Co.,Ltd.

■ 国内拠点

本社
〒409-0198 山梨県上野原市上野原8154番地19
TEL 0554 (62) 5111 FAX 0554 (63) 4193

営業部
〒409-0198 山梨県上野原市上野原8154番地19
TEL 0554 (62) 5112 FAX 0554 (62) 4319

本社工場
〒404-0036 山梨県甲州市塩山熊野666番地
TEL 0553 (32) 1111 FAX 0553 (32) 1159
〒409-0198 山梨県上野原市上野原8154番地19
TEL 0554 (62) 5115 FAX 0554 (62) 4089

津軽工場
〒037-0017 青森県五所川原市大字漆川字玉椿191番地1
TEL 0173 (33) 0570 FAX 0173 (34) 5206

岩手工場
〒028-1131 岩手県上閉伊郡大槌町大槌第10地割39番地
TEL 0193 (42) 8511 FAX 0193 (42) 8513

■ 役 員 (2021年6月25日現在)

代表取締役社長	武 内 延 公	上席執行役員	磯 部 千 春
常務取締役	白 鳥 誉	上席執行役員	小 川 秀 雄
常務取締役	久 嶋 光 博	執行役員	山 下 久 幸
取締役	櫻 井 宣 男	執行役員	中 村 隆
常勤監査等委員(社外)	加 藤 正		
監査等委員(社外)	八 巻 佐 知 子		
監査等委員(社外)	氏 家 美 千 代		
監査等委員(社外)	武 藤 比 良 志		

■ 海外拠点



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月下旬
基準日 定時株主総会・期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
特別口座の
口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の
本店及び全国各支店で行っております。

- ・住所変更、単元未満株式の買取のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- ・未払配当金の支払いについて
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。
お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。



※本アンケートは、株式会社 a2media(エー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社 a2mediaについての詳細 <https://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」 MAIL:info@e-kabunushi.com

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。



<https://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 6928

いいかぶ

検索



空メールにより
URL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を差しさせていただきます

ENOMOTO Co.,Ltd.



見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

